《岐阜県青少年育成県民会議会長賞》

みんなにとどけ、私の思い

池田町立池田中学校　３年
内　田　美　波

今、私のことを見てあなたはどう思いましたか。「車椅子にのっているんだ。なんの病気なのだろう。」「かわいそう」そう思った人はいませんか。障がいをかかえている人へ「かわいそう」と思ったり言ったりすることは間違っていると私は思います。たとえ、どんなに思いやりのつもりでその言葉を言ったとしても、ときにその言葉はナイフになって、心に一生消えない傷をつけてしまうこともあるのです。そんなナイフを、傷をこの世界からひとつでもなくすために私の思いを話します。

私は生まれつき骨が弱く、今まで何度も何度も骨折をくり返してきました。私の母がつけている骨折の記録帳で数えてみると、３８回でした。腕や足の小さな動きが大きなヒビに繋がります。痛くてつらくて苦しくて、「なんで私がこの病気をもってうまれてこなくちゃいけないの？」と考える毎日でした。歩くこともできず、車椅子での生活なので、周りの子が羨ましく感じることばかりでした。私にはできないことがみんなには当たり前のようにできる、そう考えると暗いトンネルを私だけが明かりのついていないランプを持って歩いているようで、ますます自分の病気が嫌いになりました。しかし、そんな私の進む光となってくれたのは家族や友達の存在でした。骨折の痛みや病気のつらさでどんなに私が落ちこんでいても、笑顔で「大丈夫。」「頑張ろう。」とはげましてくれます。そんな言葉が私の心をかえてくれました。そう、自分が病気であることをほこりに思えるようになったのです。ですがある日、地域の方にこんなことを言われました。「病気なんだね。かわいそうにねえ。」その瞬間、心を一本のナイフがつきさしました。なぜそのようなことを言われなければいけないのでしょうか。悔しい気持ちもありましたが、私たちってそんな風に見られているんだ。障がいに対してそう考えられているんだ。という悲しさの方が強かったです。あなたはそのようなことを障がい者へ思ったり言ったりしたことはないですか？でも、それはあなたの勝手なイメージで、相手を傷つけているだけです。障がいをかかえていても、みんな同じ人間で、その人なりの素敵な人生をおくっているのですから。

「かわいそう」というのは言葉だけで、実際それが誰かの支えになることはありません。「かわいそう」というのは口だけで、言ったからといってそれが誰かの助けにはなりません。きっと、言われた方の立場になって考えてみると、なにか気づくことがあるはずです。障がい者をかわいそうだと決めつけるのはやめてください。障がい者は自分の病気と闘う勇者で、とても強い心をもっています。まったくかわいそうなんかじゃありません。あなたの考えを少し見直すだけで、たくさんの勇者が輝けます。当たり前に思っているその言葉、少し立ちどまって、相手の立場になって、考えなおしてみませんか。